

モモ新品種「はつひめ」の育成

福島県農業総合センター 果樹研究所
平成17年度果樹試験場試験成績書
平成18～19年度農業総合センター試験成績概要
分類コード 04 - 02 - 01000000

部門名 果樹 - モモ - 品種
担当者 佐藤守・岡田初彦・大橋義孝・木幡栄子

新技術の解説

1 要旨

県産早生モモにおける有利販売性を高めるため、果実形質が優れ、食味など品質良好な早生種育成に取り組み、モモ白肉種「はつひめ」（「モモ福島9号」）を育成した。

- (1) 交配組合せは「あかつき」×「はつおとめ」（1999年（平成11年）交配）である。
- (2) 開花期は「あかつき」と同時期で、花粉は無い。成熟期は満開から約80日で、「日川白鳳」より7日程度早く、育成地（福島市飯坂町）において7月上旬に収穫できる。
- (3) 果形は偏円形で、果重は220～300gで早生種としては大果である。果皮の着色は「日川白鳳」より良好である。肉質は滑らかで、多汁である。糖度は11～14%とこの時期としては甘味があり食味良好である。また香りが豊富である。日持ちは「日川白鳳」とほぼ同等である。
- (4) 樹の生育特性は新梢が太く、徒長枝が少なく「ふくおとめ」「あかつき」に似る。幹の肥大は遅い。樹冠の広がりは中程度である。また枝が硬く側枝は下垂しにくい。
- (5) 硬核期は満開後50日頃で「あかつき」「日川白鳳」と同時期である。着色開始期は硬核期から10～14日後、収穫始めは着色開始期から15日後頃である。
- (6) 果肉内に紅色素が見られる。核割れは発生するが早生種としては少ない方である。裂果は発生しない。

2 期待される効果

本県のモモの推奨品種として早生種では「日川白鳳」と「暁星」しかない中で新たな早生品種として有望である。また「日川白鳳」より収穫が7日程度早いことから、主要市場において7月の早い時期からの販売が可能となる。

3 適用範囲

県内平坦部の果樹地帯

4 普及上の留意点

- (1) 花粉が無いが人工授粉は混植園であれば必要ない。
- (2) 花粉が無いので摘蕾作業は省略するが、短果枝を中心に50%程度の摘蕾は果実肥大確保に有効である。

具体的データ等

表1 モモ早生種の開花期、収穫期及び果実品質 (2007年)

系統番号 品種名	樹 齡	開花期 始 盛 終	着色 開始	収穫期 始 盛 終	一果重 g	糖度 %	pH	硬度 Kg
モモ福島9号	7	4/11 4/19	4/27	6/21 7/8 7/10 7/13	258	11.1	4.8	1.8
ちよひめ	22	4/10 4/20	4/26	6/18 7/2 7/5 7/9	224	11.0	4.2	2.4
はつおとめ	7	4/12 4/20	4/27	6/6 6/20 6/22 6/25	182	11.3	4.9	2.0
ふくおとめ	7	4/10 4/18	4/27	6/9 6/25 6/27 6/30	192	11.7	4.7	2.4
日川白鳳	7	4/10 4/20	4/27	6/30 7/17 7/20 7/23	349	10.1	4.3	2.2

注:「日川白鳳」の果重は結実不良による特異値である(2006年の抽出果の平均果重は271g)

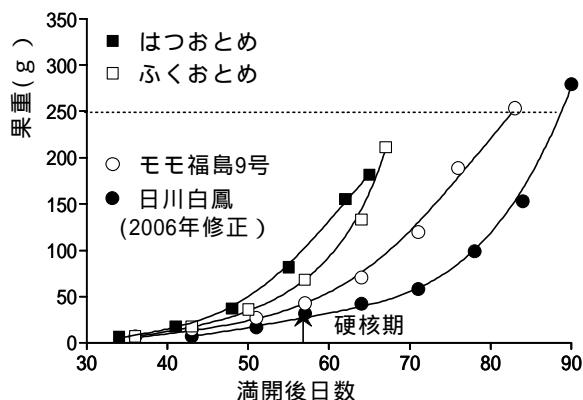


図1 早生種の果重推移 (2007年)

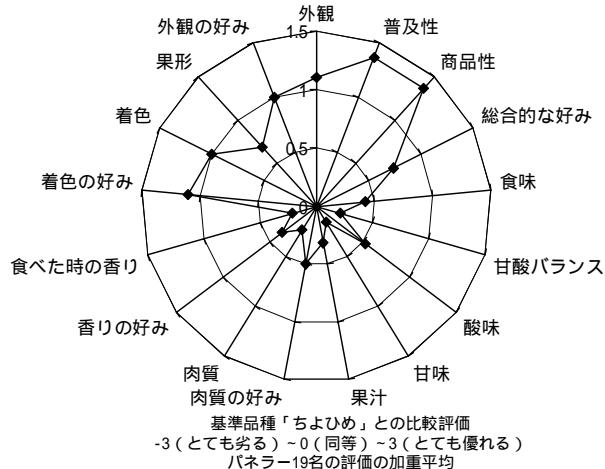


図2 官能検査による品質評価 (2007年)



図3 モモ福島9号

表2 初結実後の収穫期及び果実品質

調査年	収穫 盛日	果重 g	糖度 %	pH	硬度 Kg	食味
2002年	7/3	120	9.9	4.5	1.9	3.0
2003年	7/7	129	11.3	5.1	1.7	2.0
2004年	7/6	167	14.1	5.2	-	3.5
2005年	7/15	206	11.8	4.8	1.6	4.3
2006年	7/12	233	11.1	4.9	1.7	3.0
平均	7/9	170.6	11.6	4.9	1.7	3.2

注:食味は1(不良)~5(最良)の5段階評価

その他

1 執筆者

佐藤 守

2 主な参考文献・資料

平成17年~平成19年度試験成績書